

コード統一に向けての解決アプローチ

目次構成

はじめに

1. コード統一実施上の課題と進める上でのポイント
2. コード統一を解決手段とするプロジェクトの進め方

- フェーズ 1:システム検討と評価

- フェーズ 2:システム設計

3. フェーズ 1 における留意事項

ACT.A プロジェクトの暫定対象範囲の設定

- 対象範囲設定

ACT.B 現状システムの分析

- データ/エンティティ分析

- 暗黙知としてのコード利用

- 設計書の補完

ACT.C 情報ニーズの調査

- ニーズの把握

- 不一致コード対策

- 業務統合実施時のポイント

ACT.D 情報要求とプロジェクト対象範囲の設定

- 統一コードの意味定義及び対象範囲設定

- 不一致コード対策

- 業務統合実施時のポイント

ACT.F システム・アプローチと実現可能性の検討

- 実現性の検証

- コード管理業務の統廃合

- 移行/テスト方針の確認

- セキュリティ対策

- 影響範囲の特定と調整

ACT.G システム評価

- 影響範囲の特定と調整

- コスト評価

4. フェーズ 2 における留意事項

ACT.A システムのサブシステムへの分割

- サブシステム分割

- サブシステム仕様

- 他システムへの影響

- 業務統合実施時のポイント

ACT.B システム・フロー、システム説明書、DMD 説明書の作成

- データの共通化

ACT.D システム設計評価

- 移行の検討

- 業務移行

- システム移行

- データ移行

- 移行にかかわるマネジメント課題

- テスト計画の確定

5. フェーズ 3 留意事項について

コード統一に向けての解決アプローチ

6. プロジェクトの特性

- 6.1 プロジェクト管理の「型」と「方式」
- 6.2 4つのプロセス形式
- 6.3 プロセスの形式を判定する条件
- 6.4 プロセス形式の判定

7. 陥り易い事例(プロジェクト推進において)の紹介

- 7.1 合成コード(意味ありコード)の対応
- 7.2 コード統一の対象業務間にて要件が異なる
- 7.3 社外の認知されたコードとの対応
- 7.4 海外工場展開プロジェクトにおけるコード問題
- 7.5 コード統一に向けての現状データ調査に膨大な時間を要するケース
- 7.6 統一コードを困難とする種々のケース

8. 添付資料(アクティビティ実施上のポイント【フェーズ1、2】)